

図の上部には、次のせりふがある。

桃の井わかさの助

△市川團十郎

△詞たくみに時を得てほしきまゝ

なるは○矢の本也とはこりやたかぶる

物をさしていふたのではないか○一御意

の通り花は盛りに月は隈なきの

あたりでムリ升たかお子はおわすやと

問しに一チ人も持侍らずとことぶ

扱は物のあわれは知りた

まじなさけなきみ心にぞ

△アゝいや／＼其段ハ庶人に

限た事じや玉はふちにおく

べし利にまどぶはすぐれて

おろか成人なりうづもれぬ名を長き

世に残さんこそあらまほしかる

ぺけれと寝じゃ本蔵かの

いせいに長じ鹿をさして馬といふた

しんの趙高がたぐひ我人官ろく

身命につなかれへつらぬ

いるをたれにもあれ

吉人しうにぬきんで天下の

為にこれをうてば忠義と

いわんやたわけ物と笑んや

はゞかりなく言ふてみい

○いかさま御意の如くで

ムらぶならろくにかへ命

にかへても天下へたいし

忠義かと此本蔵は存

升る△一ムゝ本蔵これを

ひけんいたせ○一なにスリヤ

アノ執事を

△天下の為国家のため

桃の井如きが家には

かへられぬはやい

加古川本蔵

○坂東

三津五郎